

平成 26 年度事業報告書

(平成 26 年 6 月 1 日～平成 27 年 5 月 31 日)

特定非営利活動法人日本・ネパール文化交流倶楽部

1. 事業の成果

この法人は、日本とネパールの国際交流と相互の異文化理解を通じ、より豊かで思いやりあふれる市民からなる社会創りに貢献することを目的として、異文化間交流や教育支援に関する活動に取り組んでいます。仙台市宮城野区のネパール料理店「カトマンドゥ」に事務所を設置し、ネパールの食文化や日頃の活動を紹介すると同時に常時、情報公開・収集・広報・会議などあらゆる活動の拠点として機能しております。

事業の柱の一つであるネパール交流ツアーでは、現地世界遺産めぐりや交流イベントの他に、参加者と現地ネパール人の文化・生活を体験することで、相互の友好関係の構築に取り組んでいます。26 年度は 2 度企画・募集をしましたが、参加人数が集まらず、実施には至りませんでした。

国際支援事業に関しては、学費支援事業（フューチャーフラワー基金）5 年目で、例年通り春と秋の二回募集で 25 名の新規支援者が入会。理事によるネパール農村での調査・面接・選出を行い、当事業の支援で学校に通う子供は今年度でネパール 5 郡の、計 136 名になりました。中途退学率が未だ特に高い奥地の村や、4 月の大地震の被災地となった村々では一層通学が困難になる家庭が増えると思われます。今後も被災状況などを考慮し、新たな支援を開拓していく必要があります。

2015 年 4 月 25 日にネパール中部で、死者 8000 人を超えるネパール史上最大の被害を引き起こした大地震がありました。国内の主要産業であった観光業が大打撃を受けホテルや旅行会社の倒産や営業悪化による失業などが予想されます。また国民の 80%とも言われる低所得者層が従事している農業も大きな被害を受けました。それにより国内経済の低下が若い人材の海外流出をさらに増加させ、農村部に残された子供たちの教育の低下が懸念されます。無教育の人口が増えると、ますます貧困が広がりその先の世代まで影響が残ります。

これらの事態に対し、これまでのダディン郡を中心とした草の根レベルで行ってきた教育普及活動をどのように今後展開していくか、会員と共に考えていく必要があります。

2. 特定非営利活動に係る事業

(1) 国際文化交流・普及事業

① 在日ネパール人との交流会・親睦会の開催、地域のイベント参加 (2 回)

- 8 月、仙台市国際センターで開催された、「地球フェスタ」に 2 回目の参加でネパール写真展とネパール雑貨やカトマンドゥ商品を販売しました。理事長と

役員 1 名、会員ボランティア 4 名、日本人学生のボランティア 5 名でブース運営を行い、約 4000 人来場という大盛況の中、NPO 法人としての PR 活動が出来ました。当日ブースの募金箱に集まった募金額と物販売上からの寄付の総額は 863 円でした。

- 10 月、事務局「カトマンドゥ」にて文化体験会「ネパールのお祭りティハール祭」を開催。ネパール人 2 名含む 16 名の参加者がネパール料理を囲み華やかな秋の収穫祭を祝いました。

② 講演・出前授業の実施 (2 回)

- 11 月、仙台市青葉区にて、国際交流グループ“フレンドシップ・フォーラム”に副理事長がゲストとして招かれ、フューチャーフラワー基金やネパールの教育について約 12 名の参加者と意見交換をしました。
- 5 月東北学院大学土樋キャンパスにて理事長講演。東北学院大学災害ボランティアステーションの生徒約 30 名による学内での募金活動で集めた義援金 154,437 円が、松本宣郎学長同席のもと贈呈されました。講演ではネパールの文化的背景や地理的特徴、親日家が多いこと等、ネパールの魅力を学生たちに伝えました。今後も顔の見える支援の橋渡し役として随時報告を行っていく予定で、引き続き募金活動への協力もお願いしました。

(2) 国際支援事業

① フューチャーフラワー基金募集の実施 (年 2 回) 現地調査・教育支援の普及活動

- 年 2 回 (第 10 期と第 11 期) の新たな学費支援の募集と継続更新手続き、ネパールでの面接、名簿作り、レポート作成、支援金の受け渡し、支援者への報告といった一連の活動を行いました。10 月は理事長がバグマティ県ダディン郡で 7 名、3 月は副理事長がナラヤニ県バラ郡とダディン郡にて 18 名のマッチングを行い、期末までに日本の支援者は計 114 名、ネパールの学生は計 136 名になりました。
- 3 月の出張では 7 日間かけ、日本人としてだけでなく当会としても初めてタライ地方のバラ郡サパヒ村を訪れ、初めて出会う日本人に興奮ムードの中、村の視察、支援を受けている 3 名の子供たちの通う学校訪問、村人への教育支援への周知と意見交換などを行いました。4 月の大地震発生後、カトマンズ在住のスタッフの安否と支援金配布作業の進捗状況を確認したところ、大地震の前に当期分の全員に配り終えていたとの報告がありました。

② 報告会の実施

11 月に仙台市宮城野区にて第 10 期フューチャーフラワー基金報告会を行い、留学生含む 12 名が参加、ネパール農村部の状況や学費支援がどのように社会に影響を与えるのかについての理解を深めました。

③ 留学生への生活支援

- ここ近年日本全体でベトナムとネパールからの留学生が急増、仙台の日本語学校の多くも中国、ベトナムの次にネパール人留学生が多い状況となっています。事務局カトマンドゥに来店した学生の生活相談は主に、日本人の友人が出来ない、学校借り上げのアパートから出る際保証人がおらず保証会社をつけるしかない等。その為借金を重ね、さらに生活費と学費を稼ぐため睡眠や勉強の時間を割いてでもアルバイトをせねばならず、その結果日本語もあまり上達せず良い仕事にも恵まれないという極めて困難な状況は改善されていないようです。
- 日本の家を見たことが無いという学生の為に5月に会員の一人と相談し、ご厚意でその方の自宅でホームパーティーを開催。留学生4名が初めて日本の普通の家庭で料理を食べながらご家族と交流し、はじめは緊張していたものの時間と共に会話も弾み良い体験になったと大変喜ばれました。こういった日本の文化や言葉に実際触れる体験が彼らにとって一番の支援と考え、食事会や短期ホームステイ等の機会を提供しサポートしたい市民との橋渡し役になりたいと考えています。

④ ネパール大地震復興支援事業

- 4月25日のネパール中部大地震を受け、理事長の家族やスタッフと連絡を取り状況を確認。約1カ月かかり、学費支援の子供全員の無事が確認されました。26日募金活動をスタート。新聞、ラジオ、雑誌等のメディアを通じての情報発信に加え、地元大学とも新たな協力体制を構築しつつあります。正会員、賛助会員のご協力、当交流倶楽部公式ホームページ・ブログ等での呼びかけにより、日本全国から寄付が寄せられ5月末時点での義援金総額は330万7447円となりました。
- 6月支援第一弾ということで、理事長が現地入りし、ネパールのサポートメンバーと共に視察、今後の支援計画を練っております。

3. 実施体制などに関する事項

(1) 総会の開催状況

① 通常総会

- (ア) 開催日時 平成26年6月22日 午前11時00分～11時45分
- (イ) 開催場所 仙台市宮城野区榴岡4-8-1 花園レジデンス2F会議室
- (ウ) 出席者等 10人
- (エ) 議事内容
 1. 議長選任の件
 2. 実施事業報告に関する件

3. 決算に関する件
4. 役員に関する件
5. 事業計画及び活動予算に関する件
6. 入会金及び会費に関する件
7. 寄附採算に関する件

(2) 理事会及び監査の開催状況

- ・平成 26 年 6 月 22 日 理事会（内容：役員に関する件、入会金及び会費に関する件など）
- ・平成 26 年 6 月 16 日 監査（内容：前年度の業務執行状況及び財産状況の監査）

(3) 会員に関する事項（平成 26 年度末現在）

- ・社員（正会員）数：14 人（個人 14 人、内 26 年度新正会員数：8 人）
- ・賛助会員数：100 人（個人 100 人、内 26 年度新入会員数：23 人）

(4) 役員に関する事項（平成 26 年度末現在）

- ・理事長 ARYAL SHANJIB（アリアル サンジブ）
- ・副理事長 鈴木 涼子
- ・理事 淡路 千鶴子
- ・監事 片上 尚男

(5) 事業に参加したボランティアに関する事項（平成 26 年度）

- ・ボランティア参加者数：述べ 11 人
 - 内訳： 国際文化交流・普及事業：述べ 6 人（展示用写真準備、イベントの世話役、買い出し、雑務手伝いなど）
 - 国際支援事業：述べ 5 人（ネパールでの案内、スタッフ教育、面接、宛名書き、封入、支援金配布、事前事後調査、報告会運営等）

(7) 情報発信体制に関する事項

- ・ホームページ <http://japanxnepal-club.com>
- ・活動ブログ <http://japanxnepal.blog83.fc2.com>
- ・会報誌「パイラ～歩み」の発行（年 1~2 回）、報告書の作成・送付（年 1~2 回）—500 部ずつ発行